

自分の授業、客観的に 見えていますか？

授業後の手応えや感想。
それは本当に授業の「真実」でしょうか？

主観的な「**感覚**」から、客観的な「**事実**」へ。

本プレゼンテーションでは、データに基づいた授業分析のフレームワークを紹介し、指導力向上のための具体的な手法を探求します。



授業改善の「OS」：PDCAサイクル

P (Plan) 計画
学習指導案、板書計画の策定

D (Do) 実施
授業の実施と、分析のための
資料収集

A (Act) 改善
分析結果に基づき、
具体的な改善策を立案

C (Check) 評価
収集した資料に基づき、
授業を客観的に分析



授業改善は、このサイクルを継続的に回すことで体系的に実現されます。
ビデオ映像だけでは不十分であり、サイクル全体を支える「**関連教育資料**」の収集が不可欠です。

授業を「多角的に」記録する7つの視点



客観的な分析は、多様な資料を組み合わせることで初めて可能になります。
一つ一つの資料が、授業という複雑な事象の異なる側面を照らし出します。

視点の構造化：評価シートによる自己と他者からのフィードバック

授業者による自己評価

授業評価シート【授業者用】

項目：授業の準備・教材の工夫 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1

項目：児童への接し方 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1

授業者自身が設定された観点に基づき、授業を振り返るための客観的指標。自身の認識と課題を明確化する。

児童・参観者による評価

授業評価シート【児童用】

項目：説明の分かりやすさ ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1

項目：自己学習状況 ☒ 4 ☐ 3 ☐ 2 ☐ 1

授業者とは異なる視点からの評価を取り入れることで、認識のズレを発見し、より多面的な理解を促す。

これらの評価記録の蓄積が、長期的な成長の貴重なデータとなる。

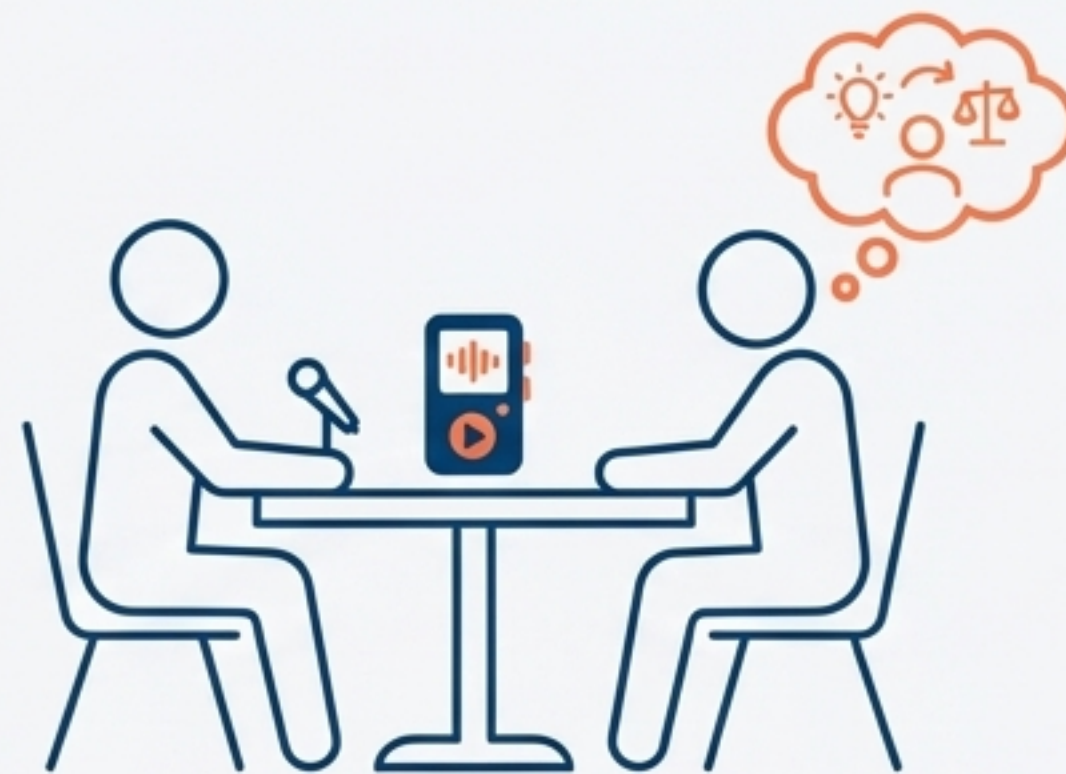
言語化されない「事実」を捉える：映像記録とインタビュー

多視点授業映像記録



単視点では見逃してしまう児童の表情や行動を捉える。教師と児童の相互作用を客観的に再現し、分析の土台となる。

授業者インタビュー



授業者の意図や判断の背景にある「思考」を明らかにする。映像記録と組み合わせることで、行動の裏裏にある教育デザインを深く理解できる。

授業中の思考を完全に正確に再現するものではないが、教師の思考にアクセスする唯一の方法である。

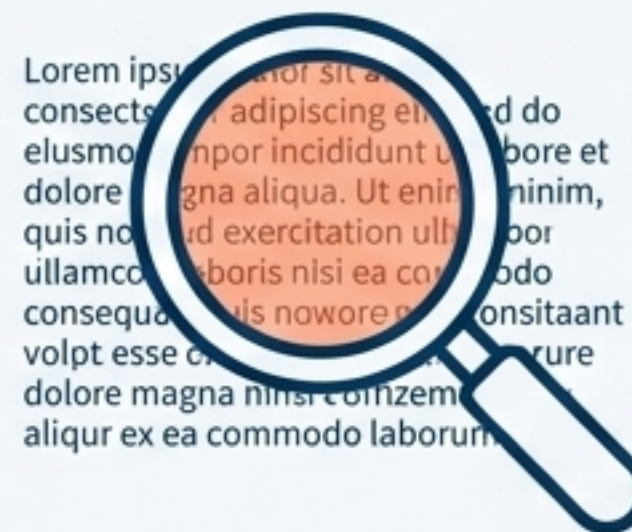
データから「意味」を読み解く：量的分析と質的分析



量的分析 (Quantitative Analysis)

授業の全体像を客観的な数値で把握する。

- ✓ 行動項目などをカテゴリー化し、出現頻度や持続時間を数量化する
- ✓ 集団全体に焦点を当てる
- ✓ 統計量に基づき、客観的な示唆を得る



質的分析 (Qualitative Analysis)

特定の事象や発言の「なぜ」を深く探る。

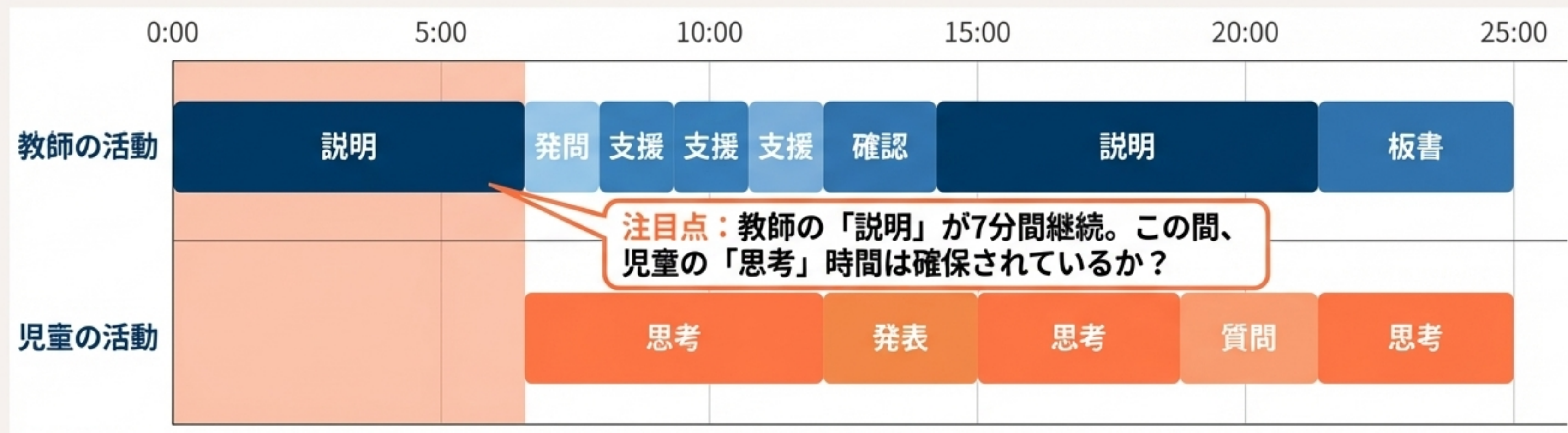
- ✓ 発言や動作をありのまま記述し、教師の意図や指導の手立てを比較する
- ✓ 個人に焦点を当てる
- ✓ 記述や記録に基づき、より実際的な示唆を得る

授業の構造を可視化する①：行動分析

What it is: 授業を一定時間（例：5秒）ごとに区切り、**教師と児童の活動**を予め設定した**カテゴリー**に分類・記録する手法。

Teacher Categories (教師の活動): 説明, 指示, 確認, 発問, 板書, 支援, etc.

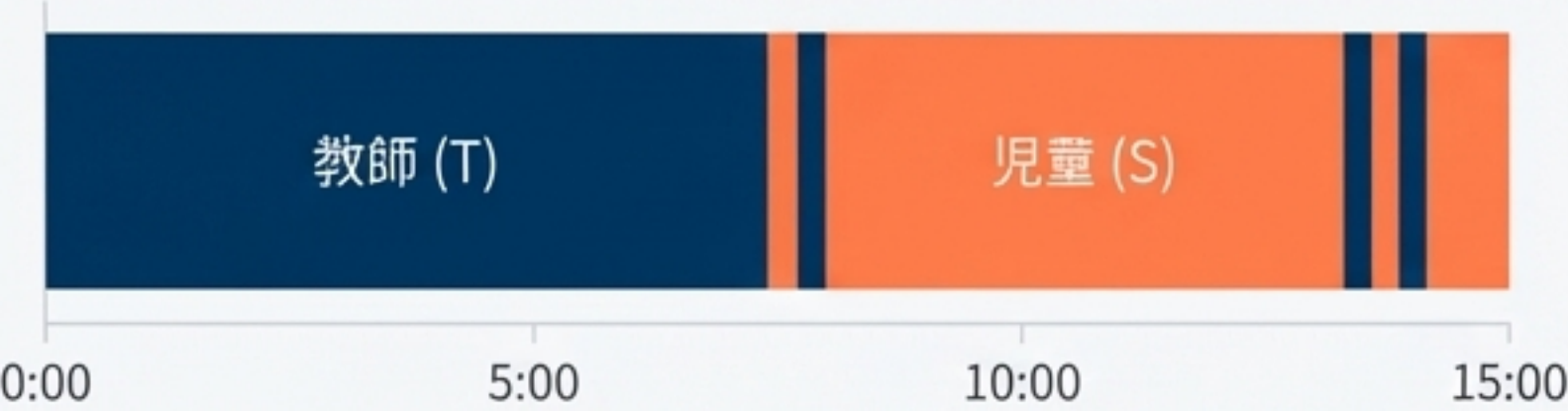
Student Categories (児童の活動): 思考, 発表, 応答, 質問, etc.



「説明」が何分続いたか、「児童の思考時間」がどれだけ確保されていたかなど、授業の時間配分や活動バランスを客観的に把握できる。

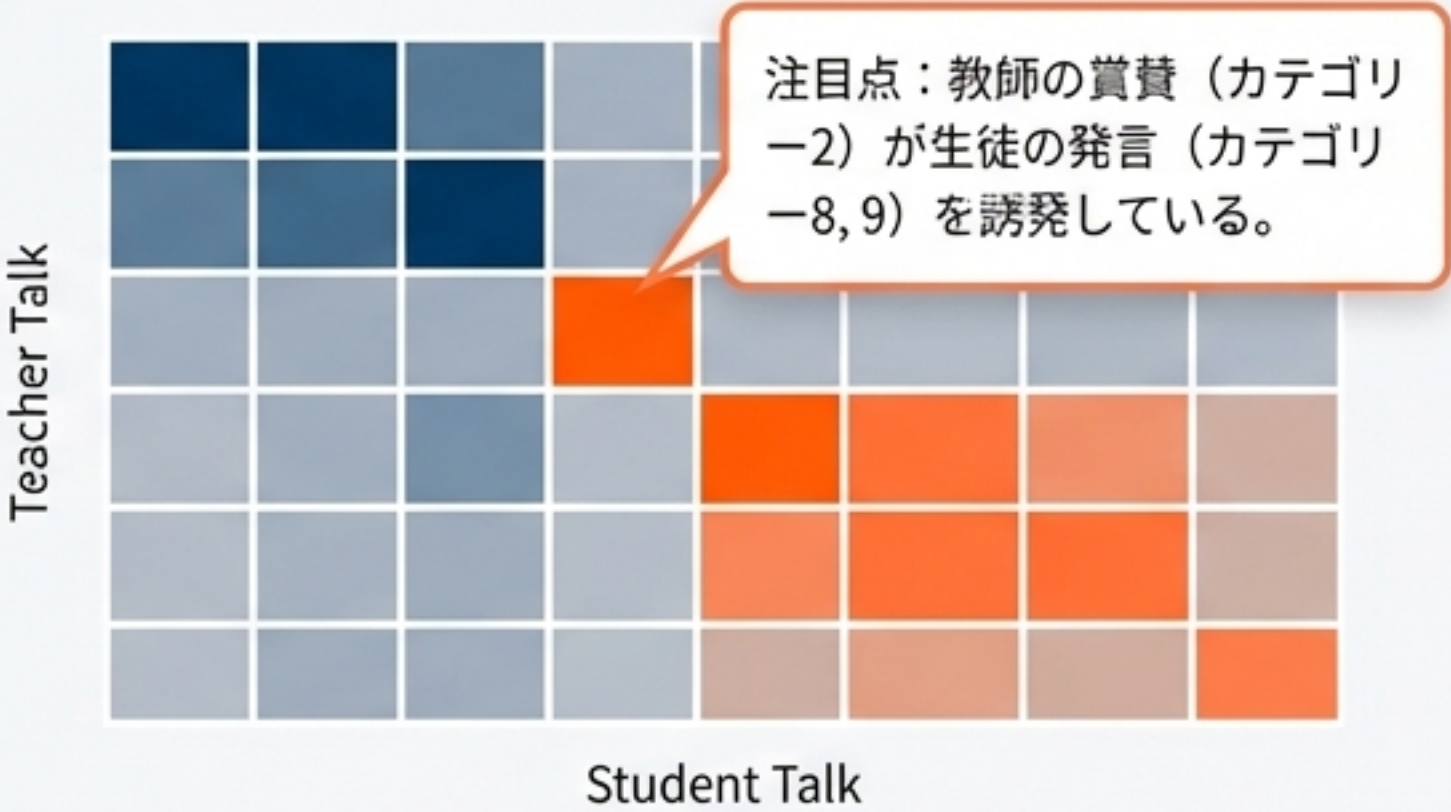
授業の構造を可視化する②：相互作用とコミュニケーション分析

S-T授業分析 (Student-Teacher Interaction Analysis)



授業の主導権が教師(T)と児童(S)のどちらにあるかの推移を時系列で分析する。児童主体の時間がどれだけあるかを可視化する。

コミュニケーション分析 (Flanders Method)



発言をカテゴリー分けし、誰の発言が誰の発言を引き出しているかを分析する。授業の雰囲気（指示的か、受容的か）を明らかにする。

言葉以上の情報を読み解く：非言語的行動の分析



指示動作 (Pointing Actions):
人や物を指す



同意動作 (Agreement Actions):
児童の意見に同意する

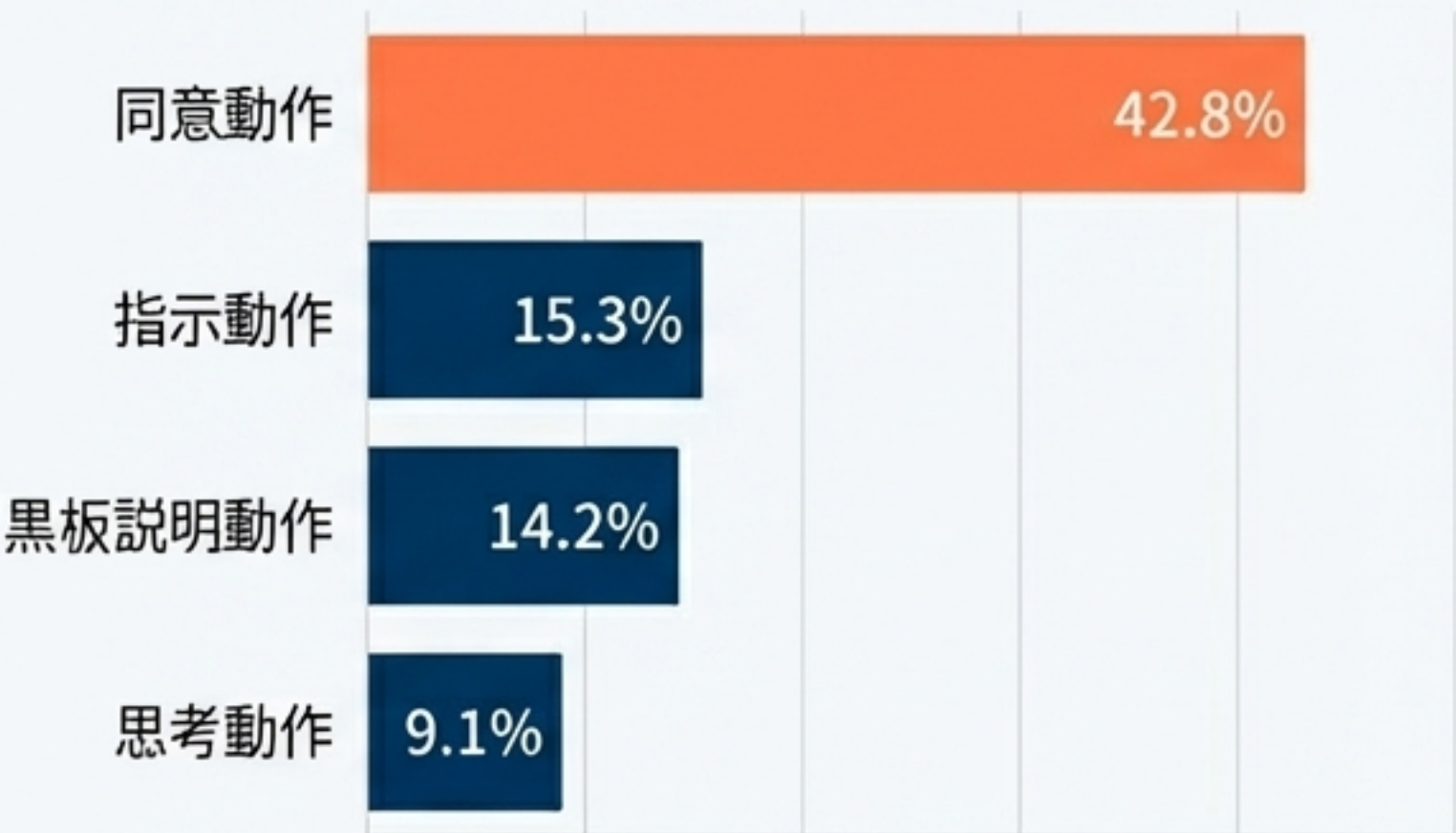


思考動作 (Thinking Actions):
教師が考えている動作



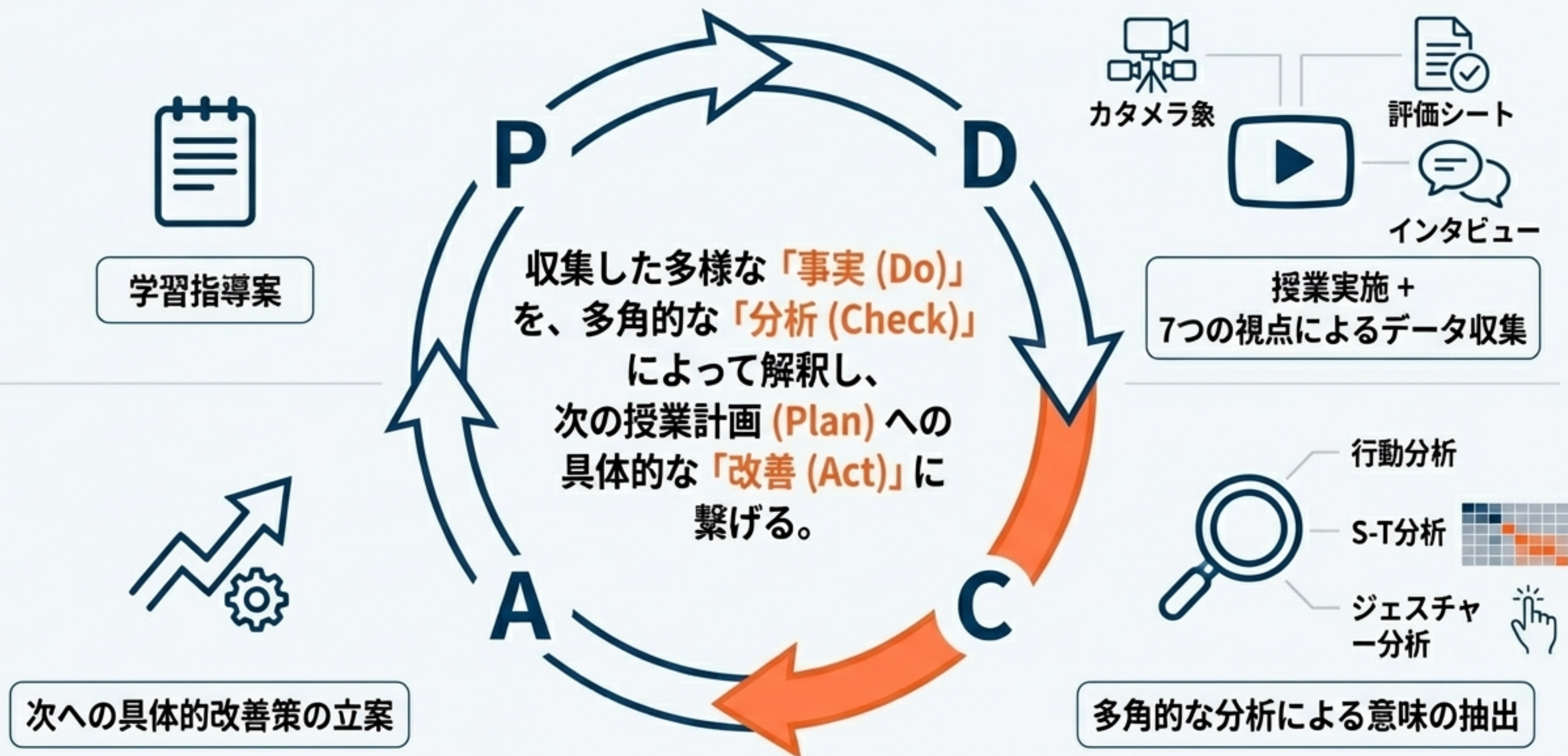
黒板説明動作 (Blackboard Explanation Actions): 板書の一部を指し示す

ジェスチャーの表出頻度



ジェスチャーは、**教師の意図**や**児童への関与**を補強する重要なメッセージです。どのジェスチャーが頻繁に使われているかを分析することで、教師のコミュニケーションスタイルを理解する手がかりになります。

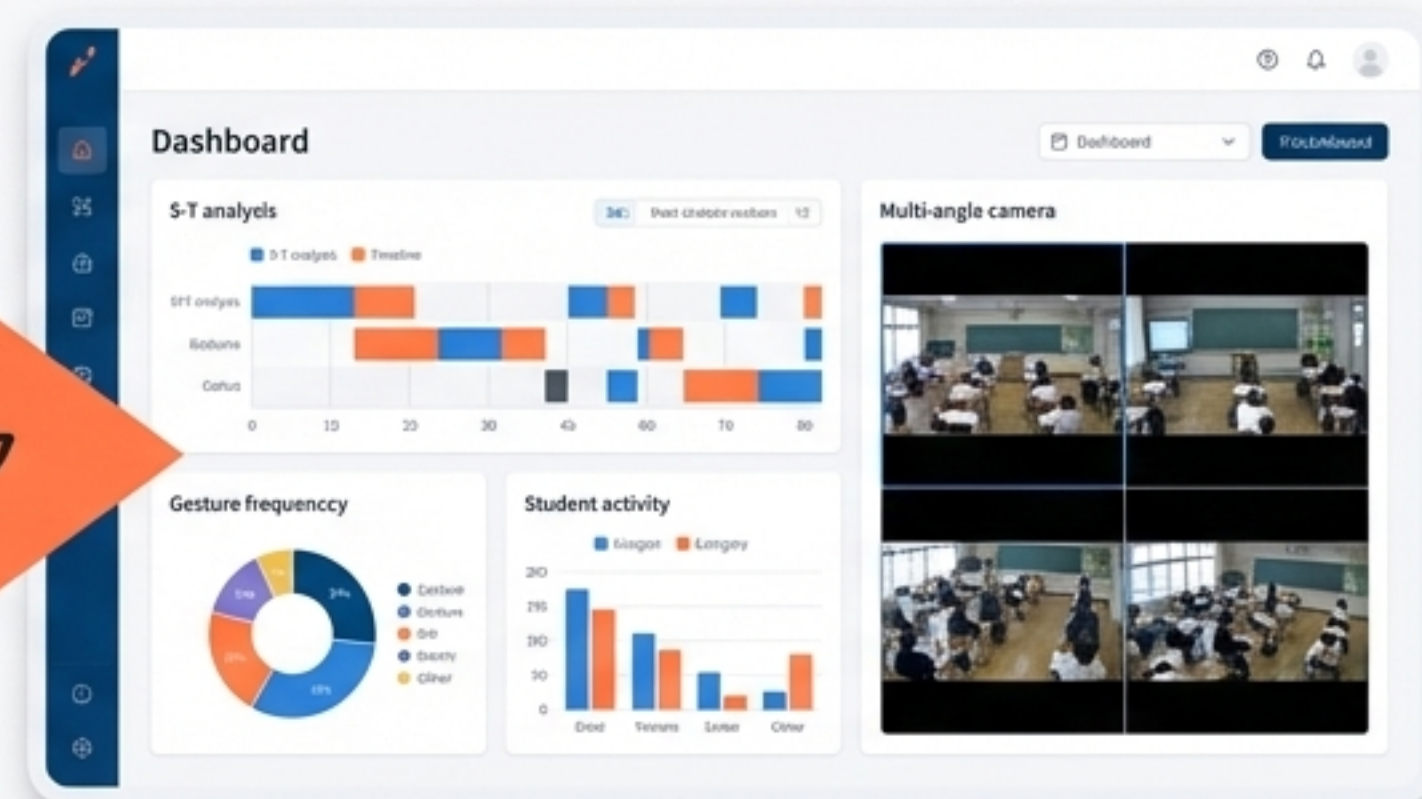
全体像：データ駆動型・授業改善サイクルの実践



感覚から確信へ：客観的データで拓く、授業改善の新たな地平



体系的分析フレームワーク



自分の授業を客観的に振り返ることは、単なる反省ではなく、専門家としての成長に向けた戦略的プロセスです。

デジタルアーカイブと分析手法は、そのプロセスを支える強力なツールとなります。

あなたの授業改善を、今日から始めましょう。